

表3 カテゴリー別ページビュー

カテゴリー	PV数
HIV感染症ってどんな病気？	63,607
おくすりガイド	61,550
抗HIV治療ガイドライン	26,430
外来チーム医療マニュアル	22,769
感染初期の診療	8,097
HIV陽性者の歯科診療の課題と対策	2,684
推奨処方エビデンスとなる臨床試験	2,211
介護保険施設のHIVケアと学校基盤のHIV予防における拡大戦略の研究	1,889
その他資料・冊子のダウンロード	1,783
HIV感染症とメンタルヘルス	1,567
症状から探す重大な副作用	1,120
研究者プロフィール	908
当研究班について	877

④ 抗HIV治療ガイドライン

平成27年1月1日～同年12月31日までのPDF閲覧数は10,900であった。

⑤ 推奨処方エビデンスとなる臨床試験

平成27年1月1日～同年12月31日までの各試験ごとのページビュー数は表4のとおり。なお一部は平成27年10月26日に公開した。

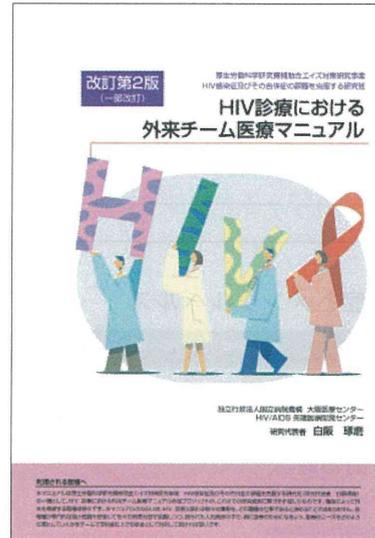
表4 試験別ページビュー

試験名	PV数
SPRING-2	143
HPTN052 ^{※1}	132
SMART ^{※1}	126
ACTG5202	99
SINGLE	94
NA-ACCORD ^{※1}	80
STARTMRK	71
ACTG5142 ^{※1}	67
ARTEMIS	66
GS102	60
D:A:D ^{※1}	58
ASSERT ^{※1}	49
GS103	36
FLAMINGO ^{※2}	31
CASTLE	27
GS934	24
ECHO ^{※2}	22
THRIVE ^{※2}	20
ALERT	16
CNA30024	9

※1：平成27年10月26日削除

※2：平成27年10月26日追加

⑥ HIV診療における外来チーム医療マニュアル



HIV診療における外来チーム医療マニュアルはHTML版とPDF版を公開している。平成27年1月1日～同年12月31日までのHTML版のページビューは22,769で、PDF版の閲覧数は376であった。HTML版各ページのページビュー数を表5に示した。

表5 ページビュー数

ページ	PV数
資料1) 医療者が普段から備えておきたい援助的コミュニケーションスキルについて	4,717
第1章4) チームとは	1,921
第3章5) 抗HIV薬・抗HIV療法	1,903
資料6) 自立支援医療	1,409
第2章iv HIV感染症と精神科診療	981
資料5) 身体障害者手帳	802
第1章5) 各医療者の役割	765
資料2) 服薬における患者と医療者のコミュニケーション事例	573
第3章6) 院外処方の留意点	475
第1章3) 加算	418

⑦ 介護保険施設のHIVケアと学校基盤のHIV予防における拡大戦略の研究

平成26年5月から、研修の紹介や申し込み受け付けなどをホームページで行った。平成27年1月1日～同年12月31日までの各ページビュー数を表6に示した。

表8 ページビュー数

ページ	PV数
TVDの添付文書	6,993
抗HIV薬全般に関するQ&A	6,968
RALの添付文書	4,356
ATVの添付文書	3,737
TDFの添付文書	2,584
EZCの添付文書	2,179
EFVの添付文書	2,138
AZTの添付文書	1,683
カレトラの添付文書	1,526
ABCの添付文書	1,337

⑩ HIV感染症ってどんな病気？



ここでは、HIV感染症や免疫に余りなじみのない方の理解を助けるために作成し、2006年末に公開した。平成27年1月1日～同年12月31日までの各ページビュー数を表9に示した。

表9 ページビュー数

ページ	PV数
CD4陽性リンパ球細胞の数	8,102
抗HIV薬について	4,934
インテグラーゼ阻害薬	4,627
CCR5阻害薬	3,797
HIVについて	3,703
病気から体を守る免疫	3,664
プロテアーゼ阻害薬	3,651
治療法について	3,446
HIVに感染すると…	3,052
CCR5阻害薬	3,797

⑪ その他資料・冊子のダウンロード

ポジティブなSEX LIFEハンドブック
HIV陽性者がセックスライフをどのように過ごしていってほしいのか、セックスを紹介した。セックスライフについてどう考えたいのか、医療者やNGO/NPO等の相談窓口と付き合うコツは何か、セックスの相手は陽性であることどう伝えたいのか、セーフティーセックスとは何かなどについて、わかりやすく解説しています。
伊沢中野子 放送大学 原上洋士
> [h20_positive_sexlife_handbook.pdf](#) 約1.2MB

HIV/AIDSの正しい知識【全章版】
HIV/AIDSについて知ってほしい基本的な知識や、HIV陽性者の受け入れの難関や不安を解消するための具体的な知識を紹介しています。
伊沢中野子 社会福祉法人武蔵野会 八王子生活支援部 山内智也
> [h22_knowledge_hiv_aids_all.pdf](#) 約22.1MB

HIV/AIDSの正しい知識【抜粋版】
HIV/AIDSについて知ってほしい基本的な知識をまとめています。
伊沢中野子 社会福祉法人武蔵野会 八王子生活支援部 山内智也
> [h22_knowledge_hiv_aids_ex.pdf](#) 約12.8MB

在宅医療を支えるみんなに知ってほしいこと
HIV陽性者の在宅医療にあたって利用可能な社会制度や診療、GSA、事例紹介などをまとめた冊子です。
伊沢中野子 独立行政法人国立病院機構大田医療センター 下野有佳
> [h23_home_medical_care.pdf](#) 約8.7MB

退院援助のための支援シート
「退院援助のための支援シート」は、HIV陽性者・AIDS患者の退院援助、地域生活支援に際し、医療関係者が何らかの困難や課題を抱える際に、全人的な視点の下に、院内外の手続きやチームを組んで対応していただくために作成したものです。
伊沢中野子 国立行政法人国立病院機構大田医療センター 小西知佳保
> [h23_sain_support_sheet.pdf](#) 約1.8MB

HIV感染症と精神疾患ハンドブック 第2版
HIV感染症の診断・治療やコメディカルスタッフが、HIV陽性者のメンタルヘルスの支援に気づき、適切に精神医学的介入へとつなぐこと。および、精神科診療科医やコメディカルスタッフが、HIV陽性者に必要な介入を行うことを促進することを目的に作成しました。
伊沢中野子 独立行政法人国立病院機構大田医療センター 廣野有久
> [h26_mental_health_v2.pdf](#) 約3.1MB

HIV/AIDS医療でカウンセリングを行っている臨床心理士のみなさんへ
病院のなかの臨床心理（暫定版）
本書は、HIV/AIDS医療における臨床心理学的活動が各面で文章化され、それを世に広めたものです。作成の目的は、実証的であるように、医療者がHIV/AIDS医療でカウンセリングを行っている臨床心理士に本書を配布し、実際に役立つ情報が必要としている情報、意見を求め、実際に役立つハンドブックを作成することにあります。
伊沢中野子 独立行政法人国立病院機構大田医療センター 伊藤真広
> [h24_clinical_psychology.pdf](#) 約12.5MB

HIV検査と告知を学ぶみなさんへ
HIV検査相談 要確認・陽性告知のポイント
この冊子は、国営HIV検査相談所における医療と受検者の方々の関わりに基づき、「要確認告知」「陽性告知」の場面において、告知を担う方々のご参考になればという思いから、そのポイントのご紹介を試みたものです。
伊沢中野子 独立行政法人国立病院機構大田医療センター 梶井雄亮
> [h23_hiv_test_consulting.pdf](#) 約3.1MB

平成26年度 研究報告書
当研究所の研究の成果をとりまとめた報告書です。
伊沢中野子 独立行政法人国立病院機構大田医療センター 白坂康博
> [h26_kadokomuhuku_report.pdf](#) 約30.8MB

平成24-26年度 総合研究報告書
当研究所の複数年度の研究成果全般についての最終報告書です。
伊沢中野子 独立行政法人国立病院機構大田医療センター 白坂康博
> [h24_h26_kadokomuhuku_report.pdf](#) 約45.3MB

ここでは、各研究で作成した資料や冊子、研究報告書のPDFを公開している。平成27年1月1日から同年12月31日までの各PDFの閲覧数を表10に示した。

表 10 PDF 閲覧数

PDF	閲覧数
HIV/AIDS の正しい知識 [全章版] (山内哲也)	381
HIV/AIDS の正しい知識 [抜粋版] (山内哲也)	87
病院のなかの臨床心理 (暫定版) (仲倉高広)	69
HIV 検査相談 要確認・陽性告知のポ イント (桜井健司)	135
退院援助のための支援シート (小西加保留)	58
在宅医療を支えるみんなに知ってほ しいこと (下司有加)	78
ポジティブな SEX LIFE ハンドブック (井上洋士)	204
HIV 感染症と精神疾患ハンドブック (廣常秀人)	191
平成 26 年度報告書	19
平成 24 - 26 年度報告書	15

⑫ 早わかり！症状から探す重大な副作用

このシステムは症状を選び、次に服用している抗 HIV 薬を選択することで、重大な副作用に該当するかどうかを判定するシステムで、平成 21 年(2009 年) 2 月より公開している。システムにはオンラインで利用できるものと、オフライン環境でも使えるアプリケーションがある。平成 27 年 1 月 1 日～同年 12 月 31 日まで、オンラインでシステムを利用したのは 137、オフラインでも動作するアプリケーションのダウンロード数は 3 であった。

(3) ページアンケートの集計

アンケートの回答は、平成 27 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までに 18 件あった。評価の内訳は表 11 のとおり。

表 11 ページアンケートの集計結果

評価	件数
役に立った	16
一部、役に立った	2
役に立たなかった	0
回答数	18

このページアンケートでは、以下の意見などが寄せられた。

【送信日時】 2015 年 11 月 3 日

【評価】

一部、役に立った

【メッセージ】

満屋博士のテレビを見ていてたどり着く。ヤンセンは精神科領域ばかりでなく、世界に貢献しているのを知っ

た。

【送信ページ】 DRV の添付文書

【送信日時】 2015 年 11 月 25 日

【評価】

役に立った

【メッセージ】

中学校の性感染症の調べてる途中でこのページを見ることが出来、阻害薬の仕組みなどについてもよく理解することができました。

【送信ページ】

「HIV 感染症ってどんな病気？」の「治療法について」

【送信日時】 2016 年 1 月 26 日

【評価】

なし

【メッセージ】

過去のガイドラインも、当サイトのどこかに置いてくださるとたすかります。

【送信ページ】 抗 HIV 治療ガイドライン

(4) Web サイト全体に関連するアンケートの集計

平成 27 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日までのアンケート送信数は 1 件であった。

送信日：2015 年 11 月 3 日

[1. どこで知りましたか]

[0]: 検索エンジン

[2. 役に立ったお薬情報]

[0]: 添付文書情報

[3. 欲しい情報]

今は特にありません。

[4. ご意見、ご要望]

北里大の大村先生や熊本大学満屋裕明先生のテレビ番組から偶然たどり着き、少し発奮しました。HIV の患者の件は、たまに書類等にみられ、関心はありました。

[5. メールアドレス]

あり

[6. 年齢]

60 代以上

[7. 性別]

男性

[8. あなたの立場]

医療関係者

考察

閲覧数は年々緩やかながらも増加し、アンケート結果からも有用な情報発信ができていると考える。

結論

ホームページに掲載している内容は、HIV/AIDSに関する基本的な知識から、医療従事者を対象とした専門的な情報まで多岐にわたり、他の研究班には無い有効な情報発信としての機能を果たしていると考ええる。

またホームページ制作技法として当時の最先端の技術を駆使するとともに、視覚障害者が利用する音声読み上げにも対応したユニバーサルデザインを積極的に取り入れてホームページを構築した。しかしホームページを立ち上げたのが平成16年(2004年)で、今では10年以上が経過し、その制作技法が古くなってきた。当時には存在しなかったスマートフォンやタブレット端末が、今ではユーザーの閲覧環境の半分近くを占めるものの、ホームページはそれに対応しておらず、スマートフォンでの表示がPCでの表示形態の縮小版でしかない。平成27年の1年間の閲覧者の環境がデスクトップ52%、モバイル43%、タブレット5%であることから、早期にスマートフォンに最適な表示ができるよう対応が必要と考える。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

該当なし

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業（エイズ対策政策研究事業）

**HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究
平成 27 年度 研究報告書**

発行：平成 28 年 3 月

発行者：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班

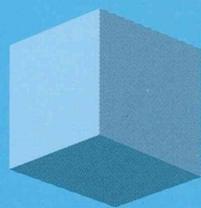
研究代表者 白阪 琢磨

〒 540-0006 大阪市中央区法円坂 2-1-14

国立病院機構大阪医療センター

HIV/AIDS 先端医療開発センター

TEL 06-6942-1331



2016